

評価項目		評価
I. 教育課程	1. 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対しては新入生説明会、在校生に対しては全校集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で教育目標を十分周知させた。 ・アドミッションポリシーを平成25年度生徒募集要項に掲載した。
	2. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会を中心に、現行教育課程表の見直しを行った。 ・教育目標に則して適切な次期教育課程を編成した。
	3. 年間授業日数・時数	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の意義を見据えながら、必要な授業日数・時数を確保した。
	4. 教育活動とその成果	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の授業において特別経費で配置された任期付き教員を配置することにより少人数学級編成の授業を行うことで十分に成果を上げるなど、適切な教育活動を行った。
	5. 行事	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を中心に適切な指導・助言を行い、充実した行事を企画・運営させた。また、事後の反省作業を充実させ、来年度のスタッフ規模や企画上の方針を定めるよう指導した。
	6. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会において本校進路指導の課題を検討し、生徒一人一人の進路実現に向けて、学年担任との連携協力を強化することを確認した。1年生進路講演会のサポート、2、3年生合同HR時の進路情報提供を行った。 ・卒業生情報のデータ集約・電子記憶媒体への記録を行い、今後はデータベース化を図ることとした。 ・3年生受験アンケート結果をまとめ、図書室進路コーナーでの生徒閲覧を可能にした。 ・チューター（お茶大生・卒業生）による放課後の補習を試行し、学習効果が期待される結果を得た。今後も定期的を実施することを確認した。
	7. 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会を「進路結果から考える本校生徒の学力状況と指導の課題」をテーマに行い、挙げられた課題について具体的な方策を検討し、一部を実施に移した。 ・「確かな学力の育成に係わる実践的調査研究-学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究」事業を円滑に進めた。 ・個人研究費を図書費・教材費・出張旅費などとして有効に活用した。
	8. 帰国国際教育	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ王国国費留学生を対象とした補習を充実させた。 ・留学する生徒および保護者に向けての説明資料の文言を整え、付属資料を作成した。 ・留学の送り出し、帰国に関する事務手続きおよび留学認定に関わる事務手続きを適切に処理した。 (留学した生徒数:3、帰国した生徒数:5) ・イオン1%クラブ主催日中高校生交流事業に協力し、7月には15名の中国人高校生を学校交流に招くことができた。また、12月には本校生徒14名が、北京を訪問し、現地高校生と交流を行った。
	9. 自治（会）活動の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部および各委員会など、各方面の活動を中核的に企画・運営する組織に対し、適切に指導・助言を行い、充実した活動を実現させた。 ・生活会議のあり方の見直しを通して、生徒への適切な支援体制を構築した。 ・自治会予算の適切な執行と、規約関連の見直し作業を行い、来年度の自治会活動の基盤を確立した。 ・自治会発案の創立130周年記念グッズについて執行部との協議を重ね、自治会の主体性を尊重しながら適切な企画に収束させた。
その他		
A 普通教育を行う学校園として	1. 経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。また、学校関係者評価委員会を新たに組織し、関係者評価を円滑に行った。 ・企画運営委員会を17回開催し、入試問題作成手順の見直し、安全管理マニュアルの改訂、内規集の改訂、校内ICT環境の改善を行い、校務の整理等の課題について検討した。 ・就業規則委員会において、変形時間労働制の運用の問題点について検討を行い、超過勤務手当支給基準の改定を行った。 ・創立130周年の記念事業を同窓会、PTA、教育後援会などと連携して行った。
	2. 出納・経理	<ul style="list-style-type: none"> ・予算委員会、副校長、総務部を中心に、校費、運営基金、諸費用などの予算執行を適切に進めた。 ・学校教育研究部の特別経費について、予算委員会の審議を経て、円滑に執行した。 ・創立130周年記念寄附事業を適正に運営した。寄付金を記念誌発行などに使用した。
	3. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室および特別教室の照明器具の改修が行われ、照度不足を解消した。教員室は改修が行われず、照度不足は解消していない。 ・施設・設備充実のためのリストを作り、営繕要求書として大学に提出しヒアリングをうけた。グラウンドの全面改修と放送設備の更新が急務である。 ・被服室の生徒実習用ミシンの全面更新およびICT機器の拡充などを行った。 ・生物室のプロジェクターの更新を行った。
	4. 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全計画に基づき、学校保健活動を行った。特に、健康管理ならびに感染症の予防に関する情報の周知徹底を行った。
	5. 安全	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策を中心に安全管理体制の見直しを行い、安全管理マニュアルの改訂を行った。 ・防災備蓄倉庫3棟への防災用品の機能的な配置を検討し、実施した。 ・3日分の備蓄食糧の不足分を大学に要求したが、配備が行われなかった。 ・教員が教室にいない時間帯の避難訓練を実施するなど、生徒に対する安全管理の指導を適切に行った。 ・自治会関連行事の開催日における来校者に対する避難経路の確認と掲示方法について検討を示唆した。 ・新入生の防災訓練をオリエンテーション期間に組み込んで、池袋防災館で実施した。 ・防災対策について、PTAとの協議を始めた。
	6. 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理システムの構築に向けて試験運用を行った。 ・校内無線LANのエリアを拡大し、授業において活用を始めた。 ・実習機にウィルス対策ソフトを導入するなど情報セキュリティを改善した。 ・生徒の公式メールアドレスの設定を行い、試行的に使用を始めた。 ・校内のコンピューターとネットワーク環境の、安全とトラブルに対する迅速な対応に努めた。
	7. 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの大幅な改訂に着手した。 ・6月と9月に2回学校説明会を開催した。第2回を輝鏡祭との同時開催として集客を図った。 (参加者数-第1回:144組 270名、第2回:237組 444名) ・6月に保護者授業参観を実施した。 ・第16回中学生向け理数体験授業を実施した。5講座に63名の中学生の参加を得た。 ・学校評議員会を2回開催し、学校運営に有益な助言を得た。 ・学校関係者評価委員会を2回開催し、学校評価について有益な助言を得た。
	8. 入学検定	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題作成に細心の注意を払うと共に、点検方法を改善し、公正な入学試験を行うように努めた。
	9. 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や各種行事などを通じて、保護者との連絡を密にし、意思疎通に努めた。 ・PTAの厚生部と文化教養部の統合で運営を効率化した。 ・PTAと教育後援会の役員懇談会を実施し、両組織の理解と連携を図った。
II. 学校運営		

	10. 学年活動	<p><1学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や委員会活動において活発な発言や積極的な行動が見られ、自主自律の精神を大事にしながら自由な発想で自己を表現できた。 ・学習への意欲が高く、出席状況も良好だった。基礎学力は確実に身につけており、幅広い視野をもった進路選択の目標設定について見通しが立った。 <p><2学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭・文化祭など学校行事の運営、部活動・委員会などさまざまな活動を通じて、各自の役割を果たすだけでなく全体を見渡す力を身に付けられるよう指導を行い、生徒たちは自覚と責任を持って役割を務めることができた。 ・大学調べ、オープンキャンパス参加、卒業生の進路講演会など行った。各学期の節目の時期には、進路に関するガイダンス、学習面での具体的なアドバイスも行ってきた。これらを通じて、進路に関する意識を高めることができた。 <p><3学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の主体性、積極性、計画性に個人差があるものの、概ね適切な進路選択ができた。 ・充分とは言えない生徒も若干いたが、学んできた内容を基に自主性と積極性を発揮し、3ヶ年間の学習の完成に努めることができた。 ・各行事とも最高学年にふさわしい態度で取り組むことができた。 		
	その他	・学校行事の写真をインターネット上で閲覧、購入できるシステムを導入した。		
B 大学の 附属 学校 園と して	I. 大 学 と の 連 携	1. 連携研究	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携シンポジウムに参加し、7年間の高大連携教育プログラムの成果をまとめ、報告書の発行等に協力した。 ・大学及び附属校園との連携研究を適切に行うよう努力した。大学関係の研究調査依頼が1件、大学の授業の一環として授業見学が3件あった。 ・高大連携実施委員会が5回開催され、高大連携特別教育プログラムの実施をはかった。 ・教養基礎科目には大学教員による出前授業が15回行われ、大学の公開授業をのべ51名が受講、「選択基礎」を12名が受講し、特別入試で10名がお茶の水女子大学に進学することになった。 ・学校教育研究部の協力の下、附属高校生向けキャリアガイダンスは全学部で実施された。 ・学校教育研究部のプロジェクト経費も配分され、印刷機、調査分析用PCなどの更新を行った。定期的に運営予算・人件費の配分があり、運営、研究を充実させることができた。 ・5附属校園間の連携研究として7つのテーマによるグループが立ち上がり、14名が参加した。 ・大学院高度教育研究副専攻履修の学生2名を国語科・英語科が受け入れ、研究に協力した。 ・東京工業大学サマーチャレンジに3年生7名が参加した。特別選抜には3名が合格し、さきがけ教育を受講した。高大連携研究会を両大学のメンバーで組織し、高大連携教育研究の検討を行った。 	
		2. 授業交流	・大学および附属校園との授業交流を適切に行うよう努力した。教養基礎教科、総合的な学習の時間を中心に大学教員による授業が行われたほか、家庭総合において、ナーサリー・保育園との交流授業なども実施した。	
		3. 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・I期31名、II期27名の教育実習生を受け入れ、教育実習および事前・事後指導を通じて、教科指導の専門性や教員としての資質・能力を向上させるべく指導した。 ・文化祭や学校説明会の手伝いなどを通して、登壇実習以外の教員の職務を経験させ、実習をより有意義なものとした。 ・教育実習専門部会において実習生の実態を報告し、問題を未然に防ぎ、より有意義な実習となるよう、大学と附属で連絡を密にすることを確認した。 	
		4. 専門委員会	・各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。	
		5. 大学の講義担当	<ul style="list-style-type: none"> ・5教科8名の教員が教科教育法の授業を担当し、高校での授業見学も含め、本校での教育実習と連携し、その効果があがるように実施することができた。 ・教科教育法以外にも8科目に8名の教員が授業を担当した。 	
		6. インターンシップ	・家庭科、情報科で受入れ、内容を充実させた。	
		その他		
		II. 社 会 貢 献	1. 授業参観 研修生の受け入れ	・外部からの授業参観・学校訪問等を2件受け入れた。
			2. 公開教育研究会開催	・創立130周年記念事業実施のため、2012年度は公開教育研究会を実施しなかった。
			3. 初任者研修・現職研修	(2012年度は該当なし)
			4. 途上国支援	(2012年度は該当なし)
			5. 出版活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要を7編の個人研究を含む充実した内容で、適切な時期に発行し、全国の附属その他に送付した。また新年度より、掲載論文をPDF化し、大学図書館教育研究成果コレクションにリンクさせることを決定した。 ・130周年記念事業の一環として、10年間の学校史をまとめた130周年記念誌を発行し、関係各方面に送付した。
			6. 各種研究会 への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・講師等派遣依頼が4件あった。 ・学内外の研究会等に積極的に参加した。また、これらの団体に対し、施設貸与等も積極的に行った。 施設貸与: 英語科関係(11)、社会科関係(2)、体育館等(7)、テニスコート(4)、その他(20)
		その他	・タイ王国国費留学生2名への教育支援を進めた。	

平成24年度学校評価(自己評価)重点目標とまとめ

1. 教育活動とその成果・進路指導(A-I)

→ 数学の授業において、特別経費で配置された任期付き教員を活用し、少人数制学級編成による授業を行い、一定の成果を得た。校内研修会において本校進路指導の課題を検討し、生徒ひとりひとりの進路実現に向けて、学年担任と連携協力を強化することを確認した。チューター(お茶大生・卒業生)による放課後の補習を試行し、学習効果が期待される結果を得た。今後も定期的実施することを確認した。

2. 防災対策を中心に、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努める。防災訓練を適切に実施するとともに防災用品の防災倉庫への機能的な配置を検討・実施する。(A-II)

→ 新入生オリエンテーションに組み込んだ池袋防災館での防災訓練に加え、教員が教室にいない時間帯の避難訓練を行うなど生徒に対する安全管理の指導を適切に行った。

防災備蓄用倉庫3棟への防災用品の機能的な配置を検討し、実施した。防災用品リストと、配置図を作成し、安全管理マニュアルに追加した。

大学の防災WGと連携して安全管理体制の見直しを行ったが、実行されたものは少なかった。3日分の食糧備蓄の目標に対し、不足分を昨年度から大学に要求しているが、今年度も配備が行われなかった。

また、文京区との協定に係わる地域住民の受け入れに関しても、附属高校体育館がその候補に挙げられているが、検討が進まなかった。

3. キャンパスグランドデザインに高校の意見を反映するよう要求しつつ、老朽化した校舎・体育館の大規模改修の実現に向けて検討を行う。施設・設備充実のためのリストを作成し、大学に働きかけるなど順次実現に向けて努力する。(A-II)

→ 校舎及び体育館の大規模改修は実現の可能性がみられず、検討も進まなかった。

普通教室・特別教室の照明設備の改修が行われ、照度不足を解消した。教員室は改修が行われず、照度不足は解消していない。

宮繕要求として大学に提出した案件の中では、グラウンドの全面改修と放送設備の更新が急務である。

4. 高大連携特別教育プログラムの円滑な実施・充実に努力するとともに、7年間の成果をまとめる。

東工業大学との高大連携教育研究を進める。(B-I)

→ 今年度の高大連携プログラムの「選択基礎」を12名が受講し、特別入試で10名がお茶の水女子大学に進学することとなった。9月には学内シンポジウムが開催され、7年間の成果報告を行い、高大連携実施報告書(3)の発行に協力した。シンポジウムで指摘のあった問題点や課

題、

7年間の実践結果の考察から、「選択基礎」の応募条件、「選択基礎」の応募から特別入試までの流れについて実施委員会で検討を行い、一部変更することとした。

附属高校生向け公開授業、キャリアガイダンス等については順調に進めることができた。

東京工業大学との高大連携教育研究については、初年度として1年間のプログラムを実施することができた。特別入試で3名が東京工業大学に進学することとなった。

制度の細部については、今年度の結果をふまえ、さらに検討の必要がある。